

第6回帯広市総合計画策定審議会 第1専門部会 議事概要

1. 日 時 平成20年6月27日(金) 17:00~21:40

2. 場 所 市役所10階第3会議室

3. 議事概要

(1) 公営住宅整備の方向性について

【委員】

人口流出という結果が出された訳で、帯広市の過去の住宅政策においてもっと最良の方法があったのではないかという反省と、過去の政策を鑑みて今後の政策を整理する必要がある。

住むところがないと働けない、産業政策上も重要な問題である。

【委員】

人口減少を前提として考えた場合、公営住宅については、今の戸数以上に必要なのかを考える必要がある。また、戸数を増やすのであれば民業圧迫につながる。

民間のアパートを公営住宅として活用してゆく必要があるのではないか。

公営住宅にかかるコストが見えない。行政コストを抑える為の考え方が必要である。

【部会長】

高齢化が進めば、人口が減少しても福祉住宅的な意味を持つ公営住宅は必要ではないか。

【委員】

データを重視したランドデザインとしての総合計画の策定が必要である。

【委員】

人口減少という結果を踏まえる必要がある。人口減少という事態が生じているのに公営住宅が3,000戸でよかったのかという事を考える必要がある。

歯抜け状態になっている空き地をどうするのか。民間の住宅政策との整合性を取る必要がある。

【委員】

人口減少と住宅の話だが、帯広で働いて周辺3町に住むことは構わないと考える。人口が減少しないことは重要だが、帯広市が医療機関や学校などを提供していき、帯広が全てを独占する必要はないと考える。

今後は、医療施設と結びついた住宅が必要ではないか。

帯広市を含め3町で同じような施設を建てるのではなく、3町を含めて施設整備していく必要があるのではないか。

【委員】

これからは不動産が余ってくると考えられ、今後は借金をして投資をして行くことはできない状況がやってくる。

人口減少のなかでも世帯数は伸びている。この世帯数が減少に転じたとき、不動産業の経営が非常に厳しくなる。そのとき、公営住宅が何を提供してゆくのかというと、福祉とか低所得者層の住むところを提供するということが重要になってくる。

数を増やすより、高齢者向けなどの質の向上が必要である。身近なところに病院やお店があるということが重要になってくる。

あまり数こだわるのではなく、弱者を保護してゆく必要性を重視する視点が重要になってくる。

【委員】

質に加え、建設場所が問題である。どこに公営住宅を建てて行政コストを抑制していくのかという視点が重要である。

【委員】

そこに、コンパクトシティの考え方が重要になってくる。

【部会長】

民間では、このコストと低い家賃で住宅を供給するのは難しい。福祉という意味では公営住宅は意味があるのではないか。

また、民間の住宅を借上して提供してゆくのは意味があるのではないか。

【委員】

高齢者や弱者に対する公営住宅供給という視点は賛成できる。コンパクトシティの考え方も重要である。3町に移り住むのは、住宅だけが問題なのではなく、保育所とか宅地の価格など幅広い問題が要因だ。

【委員】

量より質の充実に向かうのは正しい方向だと考える。高齢化と移動手手段の問題を

考えると、中心部から遠い所に建てるのではなく、中心部に近いところで一定程度公営住宅提供の必要があるのではないかと考える。

【委員】

音更の高齢者の住宅を見たことがある。1階が病院で2階以上が高齢者住宅になっている。こうしたものがこれからの方向性だと考える。

【委員】

人口減少を考えると、今までと同じことはできない。公営住宅の建設に関しても民業圧迫の心配をしっかりと理解してもらう必要がある。

そういう意味では、前回も話したが、市民への説明をしっかりとしていくことが必要である。

(2) 公共交通網について(とちぎ帯広空港、十勝港、鉄道輸送)

【部会長】

交通網全般について一括して議論を進めたい。

【委員】

とちぎ帯広空港については、ダブルトラッキングが良いのか、シングルトラッキングでも低料金導入を進めるのが良いのかという問題がある。更に、旅客だけでなく貨物も含めて考えてゆく必要がある。

東京線は増えたという話があったが、大阪線から旅客が回っているため、実質は減少と捉えるべきだ。

東京線、大阪線などの運行時刻の設定は、東京や大阪の利便性が優先されている。とちぎ帯広空港の利用増には帯広・とちぎの利便性を考慮した運行時刻の改善が必要である。

そうすると、機材を前日とちぎ帯広空港に駐機しなければならない。そこで問題になるのが着陸料である。空港収入の話もあるが、着陸料についても高いと言われている。

駐車場を無料で開放しているが、ターミナルに近い駐車場は有料にすべきではないのか。ターミナルに近いと言う付加価値に見合う料金を取っても良いのではないかと考える。

また、空港へのアクセスの問題も重要だと考える。

鉄道輸送については、時間短縮については、新幹線でも来ない限り限界に近いと考えている。そこで、JR北海道も車両の快適性の向上に努めている。

駅の利活用促進については、駅へのアクセスが重要になってくる。また、駅の周辺に駐車場が多く、駅へのアクセスが少なくなり、駅周辺で人が滞留することが少なくなった。昔は、駅が集まる場所であったが、今は列車に乗る為にしか行かない。もう少し駅を身近に感じるような方法が必要だ。

JR北海道もICカード化を発表している。とかち・帯広においてはこれとバス・タクシーの連携が必要だと考える。利用者の状況も合わせて把握できる。

【部会長】

大阪便の搭乗率が低下傾向だ。これ以上の低下は廃線につながるのではないかと。

【委員】

東京線については、シングルトラッキングでは価格低下は望めない。エア・ドゥは2010年のとかち帯広空港参入を目指していると聞いている。

価格競争が起きれば今の価格が下がるだろう。価格が下がる 利便性が増す 選択肢が増える 千歳からお客が戻るという循環になると考えられる。更に、とかち帯広空港を活用したパッケージ商品の開発も進展してくると考える。

大阪線は、利用増進のイベントを組んでいるが季節運行ということで、効果が上がりにくい。団体相手では通年でないと、業界では後回しにされてしまう。

しかし、東京線が安くなると、東京経由の大阪行きとのバランスで帯広大阪線も安くなるはずだ。それにより利用率が上昇すれば大阪線通年化の道が少し開かれると思う。

国際チャーター便は、台湾での北海道ブームに支えられているが、今後は団体旅行から個人旅行に移行してくる。つまり、チャーター便から定期便への移行が進むと考えられ、そうなると千歳に着陸すると考えられる。

駐車場については、無料ということが、千歳空港を利用せずにとかち帯広空港を利用する動機付けになっていると思う。

鉄道輸送については、高速化されているが、残ったとかちをスーパーとかちにすゝる働きかけは必要だ。

時間が短縮されたことで、札幌からの日帰りが増えたことが問題だが、逆に帯広からも札幌日帰りが可能になっている。

【部会長】

冬の事を考えると、鉄道輸送の利便性向上というのは重要な問題だ。空港については、シングルトラッキングというのが、価格低下を阻む要因だということか。

【委員】

航空については、運行時刻の設定が完全に東京・大阪の都合を優先しているのが

問題だ。

旭川空港が駐車場も含めかなり整備されている。お金はかかるが、旭川空港のような整備が必要かもしれない。

東北へのアクセスは非常に不便だ。東京から新幹線で東北に行くのが多いと思うが、特に日本海側へのアクセスは非常に不便である。

鉄道輸送については、札幌での朝早い会議に十分間に合うような運行時刻の設定が必要ではないか。

【部会長】

東北が帯広から一番遠い国内かもしれない。拠点から拠点への移動をスムーズにすると非常に使い勝手が良くなる。

【委員】

交通はネットワーク構築が重要だ。単体でのネットワークでなく様々な交通機関が連携した複合的なネットワークが必要だ。その意味では、乗り換え情報の提供が非常に重要になってくる。時間を優先する人と、お金を優先する人が存在し、それぞれへの対応は全く異なってくる。

また、とかち帯広空港は就航率が非常に良い、アメリカからの航空便の最短距離が十勝の上空である。ハブ空港化も考える必要がある。

【部会長】

十勝港との関係があるが、航空便であればキロ5000円を超えればペイしてくるという。やはり、十勝から負荷価値の高いものを作り出してゆく産業の育成とも関連してくる。

【委員】

十勝港については、道内で東京に一番近い港であり、広尾道との連携でフェリーの誘致という活動も必要ではないか。それが交流人口の増加に繋がる。

【部会長】

農業を中心に様々な産業において、十勝港の活用を考えるのも重要である。生乳なども釧路港からでなく十勝港からの移出が可能だと思う。

(3) 共通項目について(平和と人権、ユニバーサルデザイン、アイヌの人たち)

【部会長】

非常に幅の広いテーマですが関連するところもありますので、平和と人権、ユニ

バーサルデザイン、アイヌの人たちを一括して議論したいと思います。

【委員】

核や平和という活動を帯広市が行っているのは知らなかった。

【部会長】

ユニバーサルデザインについては、帯広市は進んでいると思う。国や道が帯広市内で事業を行う場合に、ユニバーサルデザインの考え方で事業を進めるよう要請するのも良い。

【委員】

ユニバーサルデザインについては、事業の導入時における理念が重要だ。取り組んだ人々がもう少し精神的に充足されることが大事だ。表彰するなどの方法が重要だと思う。

【委員】

ユニバーサルデザインは帯広市が積極的にやって行くべきだ。
核兵器や平和については、広島原爆記念館で歴史の事実をしっかりと認識する必要があると思う。

【部会長】

ユニバーサルデザインについては、様々な切り口があると思う。もっともっとやって行くべきだ。

【委員】

アイヌの人々については、小学校の授業の中でアイヌ民族について教えるべきだ。学校の教育の中で先住民族について教育する必要がある。

【部会長】

国において先住民族に対する考え方がはっきりし、国内においてマイノリティーを認めた事は重要だ。教育の場でしっかり子どもたちに伝えることが重要だ。

【委員】

アイヌ民族の文化や伝統との触れ合いや理解が重要である。

【部会長】

日本は単一民族ではないという認識が重要だ。また、一般の人々が世界の様々な

民族を知る場を設けて、世界には様々な民族がいるということを知ることも重要である。

【委員】

異なる民族どうしが理解し合うことが重要である。

【委員】

大人も日常的に少数民族がいるという認識をしっかりと持つ必要がある。

また、子どものときに平和やアイヌ民族について理解させることが重要であり、教育に組み入れてゆくのも重要である。

沖縄や広島に子ども達が修学旅行に行くが、行ったときだけではなく、日常的に理解させてゆく必要がある。

アイヌ民族を理解するのに好条件が阿寒などの道東にも多い。子どもの時に体験できることが重要で、そういうところに行き来することで理解も進むし、交流人口の増加にも役立つと思う。

【部会長】

子どものときに受けた印象というのは、インパクトがあり大人になっても続くもので、子どもときの理解促進が重要である。

(4) 評価について (質問のみ)

【委員】

評価対象は、事業か、事業担当者か。

【事務局】

評価対象は事業目的が達成されたかどうかになる。

以上